



大きく張り出した日産純正レース用のワークスオーバーフェンダー。そして、大型のチンスポイラー、カン高いエグゾーストノートを発するメガホンマフラーなどが印象的だった3.1ℓのZ。サイドにエアのアウトレットもついている



大トルクにものをいわせてのコーナーの立ち上がりでは、やはり速い、3.2ℓのスカイブルーのフェアレディZ



本誌編集員をナビシートにのせて星野選手のドライビングは、まさに、この日の圧巻といえるもので、ヘアピンでは大カウンターをあててギャラリを魅了させてくれた



第1コーナーをクリアするF-1 Z。仕上げはピカー



松下乙は、ゼロヨンの時にクラッチカバーをとばしたが、やがて修理してサーキットランを楽しんでいた

オーバーステアからアンダーへとチューニング車はめまぐるしく変る

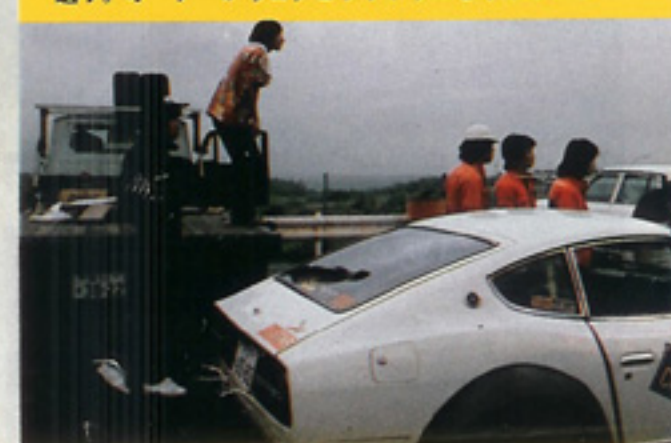
羊の皮をかぶった狼になれ 星野一義



いやあ、ボクがレースにあこがれていたころに似ているなア。いまの若者は法の規制があつて、改造が許されないのが可哀相だと思うけど、ルールは守らなくっちゃネ。ボクも若いころはストリートで突っ走ったクチだが、レースに出るようになってからはストリートじゃヒツジになってしまったよ。そのかわり、サーキットではオオカミになるようにしたんだ。無理になったんじゃない、自然にそうなったんだ。じつを言うときはようはサーキットを走る楽しさをわかってもらいたくて来たんだ。ストリートとサーキットのケジメを教えないわけだ。やっぱりナンバー付きのクルマの改造はいいない。みんなボクの若いころに似てるから、よいサーキットを走る楽しさをハダでわかってほしかった。ルールを守ってこそ、走る楽しさがカラダにひびいてくるものなんだ。



ワークスフェンダーを持つ3.1ℓのZにおさまる星野選手。オーナーからコクピットドリルを受けている



ドライバーもマシンもチョットひと休み